

3 損益分岐点で分かる採算ライン

1 採算ラインの売上高である損益分岐点

(1) 損益分岐点売上高とは

損益分岐点売上高とは、「損益を出すか利益が出るのかの境目の売上高」である採算ラインの売上高になります。損益分岐点売上高の考え方のポイントは、費用を変動費と固定費に分解することにあります。

任意の売上高に変動費比率を掛けると、その売上高に必要な変動費が求められます。売上高からこの変動費を差し引いた残りが固定費に等しくなるような売上高が損得ゼロの採算ラインの分岐点となります。

(2) 損益分岐点売上高を導く計算式

次式から任意の売上高に（1－変動比率）を掛けた値が、固定費に等しくなる売上高が損益分岐点になるのです。

- 損益分岐点売上高－損益分岐点売上高×変動費比率＝固定費
- 損益分岐点売上高×（1－変動費比率）＝固定費

上記式の両辺を（1－変動比率）で割ると、損益分岐点売上高を求める式を得ることができます。

- 損益分岐点売上高＝固定費÷（1－変動費比率）

■ 事例：A社の損益分岐点

- 売上高：5億290万円
- 費用別精査法により分解した費用の内訳
 - 固定費：2億9,917万円
 - 変動費：1億9,234万円
 - 売上高に占める変動費比率：38.2%

損益分岐点売上高の計算式から、A社の採算ラインは次のようになります。

$$\text{固定費 2億9,917万円} \div (1 - \text{変動比率} 38.2\%) = 4 \text{億} 8,409 \text{万円}$$

(3) 損益分岐点比率から企業の安全性が分かる

① 損益分岐点比率とは

損益分岐点売上高に対して、実際の売上高がどのくらいの割合であるかを示すのが「損益分岐点比率」になります。損益分岐点比率は、次の式から求めることができます。

$$\text{損益分岐点比率} = \text{損益分岐点売上高} \div \text{実際の売上高}$$

損益分岐点比率 100%とは、現在の売上高がちょうど採算ラインにあることを示します。なお、この割合を下回ると利益が出ていることを、上回ると損失が生じていることが分かります。

② 損益分岐点比率から分かる企業の安全度

企業の安全度を測る目安ラインとしては、一般的に売上高が 20%ダウンしても利益を確保できる「損益分岐点比率 80%以下」が挙げられます。

■ 損益分岐点比率の目安

80%以下	不況に強い安全な利益構造
80%台	安全圏内だが、安心はできない
90%台	わずかな業績悪化にも注意が必要
100%台	採算ラインの確保が課題
110%台	利益構造の改善努力が必要
120%以上	利益構造の抜本的改革が急務